

京都AEDセミナー

ABC of AED セミナー「命のきずな～救命の連鎖への参加～」

<実施実績>

- 日時 2008年11月29日(土) 14:00～16:00
- 場所 京都リサーチパーク サイエンスホール
- 講師 松井道宣 先生
(NPO 法人 セントジョンアンビュランスジャパン協会 理事長
医療法人同仁会 京都九条病院 理事長)
- 参加費用 無料
- 参加者数 31名(事前登録 35名 内26名出席 当日参加 5名)
- 主催 BLS コンソーシアム
- 共催 NPO 法人 セントジョンアンビュランスジャパン協会
- 後援 京都府教育委員会 京都市教育委員会 京都府体育協会
KBS 京都 京都新聞社
- 協賛 総合警備保障株式会社 伊藤忠商事株式会社 フクダ電子株式会社
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン
- インストラクター 京都橘大学 現代マネジメント学科 救命救急コース 学生6名
フクダ電子/総合警備保障/フィリップス スタッフ
- プログラム
 1. 講演「命のきずな～救命の連鎖への参加～」
 - メッセージビデオ「命のバトン」を含む講師:松井道宣 先生
(NPO 法人 セントジョンアンビュランスジャパン協会 理事長
医療法人同仁会 京都九条病院 理事長)
 2. AED 設置の必要性～スポーツ現場を例に～
講師:辻内伊織
(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン)
 3. ひとり一体の簡易型蘇生人形を使った救命講習
講師:夏目美樹
(京都橘大学 現代マネジメント学科 救命救急コース 助教)

＜セミナーレポート＞

紅葉の見頃の最終シーズンに重なったためか、参加人数は他セミナーと比べて少なかったものの、少人数ならではの中身の濃い内容のセミナーになったと思われる。

NPO 法人セントジョンアンビュランスジャパン理事長で医師の松井道宣氏の講演では、体育祭中に突然心停止に見舞われ、そのまま亡くなった子どもを持つ母親が作成したメッセージビデオ「命のバトン」を冒頭で上演、心室細動や AED 設置がスタートする経緯を含め、命の大切さを訴求。救命の現実、市民が行なう救急法の必要性、なぜ市民が行なうことが大事なのか、などについて、“救命の 4 つの連鎖”に照らしながらの説明がなされた。

その後、フィリップス・辻内氏から、突然心停止によるスポーツ中の事故などを例に、過去の新聞記事をとりあげながら、AED の必要性、また心肺蘇生法の重要性についての講演が行なわれた。座学の後には、ひとり一体の簡易型蘇生人形・ミニアンを使用し、倒れた人を発見した場合の救命方法を京都橘大学所今日で救急救命士の夏目美樹氏が指導。救命に必要な胸骨圧迫などの一連の方法を順を追って学び、最後はシナリオ「京都駅 0(ゼロ)番ホームで 60 歳くらいの女性が倒れました！」などに則って、二人一組でのシミュレーションを行なった。

少人数だっただけに質問しやすい雰囲気生まれ、その後の質疑応答も活発に行なわれた。質問も多岐にわたり、「肋骨が骨折した場合は？」「刺青がある人は？」といった心肺蘇生法に関する質問から「AED の値段は？」といった製品に関する質問が上がり、講師や担当者からのきめ細かい説明がなされた。

終了後に寄せられたアンケートでも、各講演は 5 点満点中ほぼ満点、また心肺蘇生法や AED についての関心度も向上した結果が得られた。

<講演風景>



「命のきずな」の講演を行なう松井医師



「AED の必要性」辻内氏



倒れている人への声掛けを指導中・夏目助教



全員でリズムをとりながら胸骨圧迫を 100 回！



小学生も挑戦！



楽しみながら学びました



呼吸確認の方法を確認中・・・